

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

環境に応じた支援と、つながる力を信じて

東京都作業療法士会「自動車運転と移動対策支援委員会」委員長を、この4月より拝命いたしました大熊と申します。微力ながら、会員の皆さまとともにこの重要なテーマに向き合っていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私はこれまで、自動車運転再開支援に関わるなかで、ドライビングシミュレーターを活用した評価や、教習所と連携した実車評価など、比較的環境の整った体制の中で支援を行ってきました。退院後も運転を再開したいという強い希望を持つ方々に対して、安全性を確認しながら支援できることに、やりがいと意義を感じてきました。

しかし一昨年、異動により急性期病院へと勤務先が変わり、ドライビングシミュレーターによる評価や教習所との直接的な連携が難しい環境となりました。急性期には、脳卒中発症後まもない、まさに「働き盛り」の方々が多く入院されます。ご本人から運転再開について相談を受けることも少なくありませんが、以前のような直接的な評価や支援ができないもどかしさを感じるが増えました。

そんな中で、私は改めて「今、自分にできる支援は何か？」を問い直すようになりました。最近では、患者さんが退院後に運転再開を希望する場合に向けて、制度や手続き、評価を行っている施設の情報をしっかりと提供すること、また、転院調整の際にはドライビングシミュレーターや実車評価を実施



している病院をご提案することを、ソーシャルワーカーと連携して行うようになりました。

東京慈恵会医科大学
附属病院 大熊 諒

直接評価を行えなくても、次につながる支援を考え、伝え、つなぐことが今の自分にできる大切な役割だと感じています。

また、こうした情報を院内の他の療法士にも共有し、運転再開支援への理解と関心を広げることで、チーム全体としての支援力を高めることにもつながると実感しています。やはり大切なのは、与えられた環境の中で「できない理由」を探すのではなく、「今、ここでできることは何か？」を見出していく姿勢なのではないかと思います。そして、それを支えてくれるのが「連携する力」なのだと、日々感じています。

現在、当委員会では、病院間の連携や地域とのつながりをより深める活動を進めております。自施設だけでは支援に限界があるからこそ、都内全域で情報と経験を共有し、支援の輪を広げていくことが、今後の鍵となると考えています。運転や移動手段の支援は、患者さんのQOLや社会復帰に大きく関わるテーマです。委員会活動を通じて、都士会員の皆さまと共に力を合わせていければ幸いです。

今後とも、温かいご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

- ◆環境に応じた支援と、つながる力を信じて…①
- ◆第21回東京都作業療法学会報告…②
- ◆「スポーツ」を“作業”として一スポーツ支援委員会のご紹介…②
- ◆令和7年度 第17回 定時社員総会報告…③
- ◆教育部からのお知らせ…④
- ◆事業部 看護フェスタ開催報告…④
- ◆今年もキッズフェスタ行ってきました！！…⑤
- ◆第21回東京都作業療法学会…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.51…⑥

- ◆保険部 Letter…車椅子のオーダーメイドについて…⑦
- ◆福祉用具部からのお知らせ…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策のこれから…⑧
- ◆今年度も開催します！「就労支援委員会主催 オンライン事例検討会」…⑧
- ◆災害リハビリテーション支援のための事前学習について…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆地域づくりサポーター実践報告会&交流会（Café&bar）を終えて…⑫
- ◆編集後記…⑫

第21回東京都作業療法学会報告

第21回東京都作業療法学会実行委員長 大瀧 直人

2025年7月13日（日）、東京都立大学荒川キャンパスにて開催された「第21回東京都作業療法学会」は、作業療法士をはじめとする多職種が集い、臨床と研究の最新情報を共有する貴重な機会となりました。また、今回は一般参加者に向けた広報により多くの方に来場していただき、作業療法について知っていただく機会が提供できました。

中里武史学会長の開会挨拶に続き、特別講演の安保雅博先生からは「作業療法の独自性と可能性」について、作業療法の社会的意義と今後の展望について深い議論が交わされました。

教育講演では、最新の脳卒中身体機能への介入方法、学校作業療法、離島での作業療法支援など多岐にわたるテーマが取り上げられ、各分野での作業療法の役割と実践が紹介されました。

また、ワークショップでは「色カルタ・クオリアゲーム」や「自分らしいキャリアの描き方」など、参加者が実践的なスキルを学べる内容が提供され、参加者の積極的な意見交換が行われました。

その他体育館では、リハビリテーション機器や支援技術を紹介する企業ブースも設置され、最新の技術や製品に触れることができました。

学会終了後には、参加者から「実践に即した内容が多く、明日からの臨床に役立つ情報が得られた」との声が多く寄せられ、今後の作業療法の発展に向けた意欲を感じました。

来年の第22回学会も、さらに充実した内容での開催が予定されており、引き続き多くの皆様のご参加をお待ちしております。

「スポーツ」を“作業”として —スポーツ支援委員会のご紹介—

スポーツ支援担当理事の楠本です。

今号より、スポーツ支援委員会も毎号寄稿させていただくことになりました。今回は初回となりますので、まずは当委員会の概要についてご紹介いたします。

当委員会は、昨年度より正式な委員会として認められ、『スポーツ支援委員会』として本格的に活動を開始いたしました。現在は20名を超える委員が所属し、それぞれの専門性を活かしながら、さまざまな形でのスポーツ支援に取り組んでいます。

「作業療法士によるスポーツ支援」と聞くと、まずパラスポーツが思い浮かぶ方が多いかもしれません。しかし私たち委員会では、「スポーツ」を“作業”の一つとして広く捉え、競技スポーツだけでなく、eスポーツやスポーツ観戦といった活動も支援の対象としています。これは、活動・参加および交流・生きがいといった要素が多分に含まれており、まさに作業療法の支援領域と考えています。

こうした活動の一環として、昨年度および一昨年度には、東京都のeスポーツ関連事業への協力も行い、さまざまな団体との連携を深めてまいりました。

今後も、年齢や障害の有無に関わらず、すべての方がスポーツに関われるような環境づくりを目指し、作業療法士としてできる支援を模索してまいります。また、会員の皆様とも連携しながら、実践に活かせる情報や事例も共有していければと思っております。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度 第17回 定時社員総会報告

事務局長 中里 武史

令和7年6月29日（日）TIME SHARING新宿の会場にて、令和7年度 東京都作業療法士会 定時社員総会を開催いたしました。

総会においては役員のほか、代議員登録者数32名のうち、16名の代議員が出席され、委任状および書面表決書の提出を合わせて31名が有効数となり、すべての議案が成立しました。

今回の総会では令和6年度の事業報告と決算報告、令和7年度の事業計画および予算案について、今年度のすべての議案が承認されました。会員の皆様におかれましてはホームページの「お知らせ（会員の方へ）」にも議案書を掲載しておりますので、報告内容に関しましてご参照いただけますと幸いです。

東京都作業療法士会の会員数は5月時点で2525名とコロナ禍の影響を受けて減少して以降、伸び悩んでいる状況にあります。一方では東京都や市区町村からの介護予防や発達関連の相談や依頼も増えており、東京都作業療法士会として受託する事業も増えています。東京都作業療法士会への依頼については、各部・委員会、ブロック、各養成研修受講者など、たくさんの会員の皆様にご支援いただき対応しているところです。今後も様々な場面で作業療法士が活用いただけるよう、人材育成や連携強化に関して一層活動や事業に取り組んでまいります。また、学会への一般無料参加やオープンキャンパス支援など中高生に向けた働きかけを実施し、作業療法士の入学者数を増やすための養成校との連携も継続してまいります。会員の皆様におかれましては、引き続き東京都作業療法士会の事業にご理解、ご支援くださいますようどうぞ宜しくお願い致します。

〇令和6年度 東京都作業療法士会にて受託している市区町村の事業についてのご報告

東京都作業療法士会では市区町村の実施する介護予防・日常生活支援総合事業として、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「短期集中予防サービス」等の事業を受託しています。令和6年度は墨田区、千代田区、目黒区、国立市の4つの市区町村の事業を受託し、令和7年度からは府中市の事業の受託も開始しています。

また、地域ケア会議への作業療法士の推薦、地域包括支援センターや保健所が実施する事業への作業療法士の紹介等を適時行っています。令和6年度は中央区、大田区、荒川区、江東区、江戸川区、八王子市からの相談、依頼について対応いたしました。

介護予防・日常生活支援総合事業に限らず、学校支援、発達関連やその他さまざまな相談も適時対応しております。こうした事業は東京都作業療法士会の主催事業ではなく、個人情報等の関係もあり、詳細に活動を報告できない場合も多いのですが、地域づくり共創部や子ども委員会をはじめとした各部署の実施する研修会等でも作業療法士の活動を紹介しておりますので、今後とも機会がありましたらご参加いただけますと幸いです。



教育部からのお知らせ

2025年度 現職者選択研修（必修）MTDLP基礎研修開催のお知らせ

開催日時：2025年8月30日（土） 9：30～17：30予定

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

参加費：会員4,000円、非会員8,000円

申し込み：QRコードより読み込み、もしくは都士会ホームページ参照

※日本作業療法士協会会員及び東京都作業療法士会員の方を優先

※詳しくは、東京都作業療法士ホームページ「研修案内」をご参照ください。

※今年度の開催はこのほか2026年3月を予定しています。



2025年度 現職者選択研修（老年期）開催のお知らせ

※本研修は2024年度以前に日本作業療法士協会に入会した方を対象としています。

2025年度に入会をされる方は対象外です。

開催日時：2025年7月27日（日） 9：00～16：30（8：45～入室開始）予定

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

参加費：会員4,000円、非会員8,000円

申し込み：QRコードより読み込み、もしくは都士会ホームページ参照

※詳しくは、東京都作業療法士ホームページ「研修案内」をご参照ください。



事業部 看護フェスタ開催報告

事業部 帝京大学医学部附属病院 村上 元太

2025年5月17日（土）、第23回看護フェスタが開催されました。当日はあいにくの悪天候にもかかわらず、地域の皆さまを中心に約160名の来場がありました。私は事業部の一員として「認知症や日常生活の相談」ブースに参加し、約40名の方からご相談をお受けしました。

相談に訪れた方々は、看護学生に限らず、ご高齢の方や小さなお子さま連れの保護者の方など幅広く、看護フェスタが地域住民にとって大切な交流の場となっていることを実感いたしました。会場内では、進路相談をはじめ、ストレスチェック、身長・体重・体脂肪率の測定、妊婦体験、赤ちゃん人形を抱く体験など、さまざまな体験型ブースが展開され、参加者の皆さまにとって看護をより身近に感じていただける貴重な機会となっております。

このようなイベントに参加させていただいたことは、作業療法士の役割を広く知っていただく良いきっかけになったと感じております。今後も地域とのつながりを大切にし、作業療法の魅力や重要性を発信していけるよう努めてまいります。



今年もキッズフェスタ行ってきました！！

子ども委員会 石井 ハル

事業部 遠藤 環

2025年4月19・20日、TRC東京流通センターにて「第24回キッズフェスタ」が開催され、昨年度の「子どものための福祉機器展」に続き子ども委員会、福祉用具部、スポーツ支援委員会と4部署合同で参加をしました。また、株式会社ユニコーンも賛助会員として一緒に参加いただきました。「OTはすべての子どもの遊ぶ権利を保障する」というコンセプトを掲げ、各部署の視点から意見を出しあい、株式会社ユニコーンとも一緒に出展したことで遊びと学びを一体的に展開することが出来ました。部署間のコラボレーションによりそれぞれの部署の強みを掛け算するような取り組みを検討していくことが今後の都士会活動には重要であると感じました。当日は、当事者の方とご家族、支援者、療法士等々多くの方々と賑わっていました。当事者の方々やご家族は展示されている感覚グッズやおもちゃを見つけて立ち寄ってくださることが多く、一緒になって遊ぶ中でたくさんの笑顔がみられました。対応する中で「このおもちゃってなんですか？」と感覚グッズやおもちゃについて聞かれることが多くありました。そのような時は、単におもちゃやグッズの名前をお伝えするだけでなく、“どんな状況で”“どんな目的で”“どんな風に”を併せてお伝えすると「なるほど！」と感心してくださることが多く、より作業療法のエッセンスが伝わりやすくなると感じました。



第21回東京都作業療法学会

認知症の人と家族の生活支援委員会 山下 高介

当委員会では、昨年に引き続きオレンジカフェ関連の企画を行います。

この企画では、3月に開催した座談会（認知症に関する情報交換会）で学んだ内容、本来のオレンジカフェのあり方について実践する予定です。当事者の方や作業療法士による講座、そしてカフェといった内容となっております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

この記事が皆様のお手元に届く頃には学会は終わっておりますが、きっと当委員会の企画は好評だったのではないかと思います。学会終了後に、この記事を読まれた方、ぜひ学会での感想をSNS等で発信してください。また、オレンジカフェに興味を持った方は当委員会までご連絡ください。ぜひ、一緒に委員会活動をしましょう！

認知症にやさしい本の紹介 VOL.51

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『認知症バリアフリー社会実現のための手引き』増補抜刷版

制作/発行/編集 日本認知症官民協議会 認知症バリアフリーワーキンググループ

この手引きは認知症を取り巻く社会の認識を刷新し、共生社会の実現を強く提唱するものである。特に注目すべきは、「新しい認知症観」の提示である。これは、認知症になったからといって何もできなくなるという「古い認知症観」を否定し、認知症の人が尊厳ある個人として、できることややりたいことを持ち、地域で自分らしく暮らし続けられるという考え方に基づいている。2024年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」および同年12月に閣議決定された政府の「認知症施策推進基本計画」の動きを受けて作成された。これにより、認知症の人が日常生活や社会生活を営む上での障壁（バリア）を取り除くことの重要性が強調されている。企業や団体に対しても、「認知症バリアフリー宣言企業」としての取り組みを促し、認知症の人を消費者として捉え、安心してサービスや商品を利用できる環境整備に努めることを求めている点は特筆に値する。また、65歳未満の若年性認知症の人も増加している現状を踏まえ、年齢にかかわらず誰もが認知症になり得ることを前提に、自分ごととして認知症について考え、備える時代の到来を訴えている。職場における認知症への対応についても具体例を挙げ、働き続けられる環境を整えるための提言は実践的である。総じて、この手引きは、認知症への理解を深め、認知症の人々が社会の一員として尊重され、安心して暮らせる社会を築くための指針として、重要な意義を持つといえる。



QRコード

保険部 Letter

車椅子のオーダーメイドについて

横山 雄一

介護保険では、車椅子は原則として既製品からのレンタルが適用となっています。しかし、車椅子が対象者の身体状況に合わない場合や、提供できる車椅子の種類に限りがあるため、場合によっては既製品のレンタルでは対応できないケースがあります。

医師の意見書や身体障害者更生相談所の判定に基づき、オーダーメイドが必要と判断された場合に、身体障害者福祉法に基づく補装具として給付される可能性があります。ただし、介護保険の福祉用具で対応可能と判断された場合は、補装具給付は行われず、介護保険の福祉用具貸与が優先されます。身体障害者手帳を持っている方で、介護保険が適用されない方は、障害者総合支援法に基づき、原則として見積額の1割負担で補装具の製作や修理が受けられる場合があります。

○ 車椅子のオーダーメイドにおけるメリット・デメリット

メリット	デメリット
▶対象者の身体状況に合わせて作製できるため、身体にフィットしやすい。 ▶座面の高さやヘッドレストの追加、リクライニング機能の追加など、機能性が高く、個別のニーズに合わせた対応が可能。	▶身体測定や見積もり、申請手続き、実際の製作工程を経て納品となるため、製作に3か月以上かかる場合がある。 ▶既製品と比べて高価になりやすい。価格差は車椅子の種類によって大きく異なるため、注意が必要。

福祉用具部からのお知らせ

□ 福祉用具研修会「IT機器を活用した作業療法支援」の研修の感想

参加者 大久野病院 加藤 莉々香

IT機器は触れる機会が少ないこともあり、実際どのように使用するのか説明や体験をしてみたいと思い研修会に参加させていただきました。研修の中では、IT機器のレンタル事業についての説明があり、今回の研修を受講することでOT協会からレンタルし、患者様へお試しが出来ることが分かりました。実際にIT機器の説明や体験もでき、操作方法を業者・メーカーの方より詳しい説明がありました。また、自分自身が機器を体験する事で、使用後の疲労度も理解でき、患者様に適切な機器を提案できると感じました。デジタルアクセシビリティアドバイザー（DAA）の紹介とアクセシビリティ機能の説明では、普段私が使用しているスマートフォンでも、使いやすくする機能が数多くあることを知り、DAAの資格にも興味がわきました。所属施設のスタッフにも情報共有を行い、IT機器の導入に役立てたいです。



□ 生活行為工夫情報事業の活用情報

生活行為工夫情報事業のミニ情報として、キッズフェスタ、子供のための福祉機器展で事例の活用を行い、他職種・ご家族への啓発を行いました。

□ 9月・10月福祉用具部の研修案内

9月か10月にメーカーさんとコラボした上肢装具の研修を企画調整しています。日程が決まりましたらHPにUPしていきますのでご確認ください。

自動車運転と移動支援対策のこれから

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大熊 諒

5月号の都士会ニュースで掲載した「委員募集と活動紹介」に関する記事をきっかけに、新たに興味を持ってくださった方々から反響があり、現場での関心の高まりを実感しています。支援が必要な方々の生活を支える上で、運転再開に関する取り組みは今後ますます重要になると考えています。お陰様で、新たに委員として協力してくださるメンバーも加わり、今後も精力的に活動ができればと考えています。

7月に開催された都士会学会では、「自動車運転再開に向けた多機関連携」をテーマに、急性期から生活期に至る支援の実例を紹介しました。今回は病院関係者だけでなく、自動車教習所の担当者にもご登壇いただき、制度や実務、実際の連携事例について多角的に学ぶ機会となりました。参加者とのディスカッションも活発に行われ、多様な職種が関わる運転再開支援の広がりを感じる場となりました。

今後は、地域や病院間の連携がさらに重要になります。すでに支援を行っている施設と、これから始めようとする施設が互いに情報を共有し、連携の輪を広げていくことが求められます。運転支援や移動対策に興味をお持ちの方は、ぜひお気軽にご連絡ください。ネットワークづくりに向けた第一歩を一緒に踏み出しましょう。

▪ 連絡先：自動車運転と移動支援対策委員会 大熊 諒 E-mail: okumar@jikei.ac.jp

今年度も開催します！「就労支援委員会主催 オンライン事例検討会」

就労支援委員会 松本 直之

就労支援委員会では、就労支援に関する知識の向上やスキルアップを目的とした「オンライン事例検討会」を毎年開催しており、今年度も開催いたします。

今年度は、8月と12月に開催を予定しています。

8月の内容は、高次脳機能障害の復職・再就労事例についてです。

聴講していただく方には、委員同士の事例検討をお聞き頂きながら、就労支援の実例を感じていただければと思います。（ご参加いただく方には事例検討会における守秘義務への同意をお願いします）

また、事例検討終了後には、就労支援に関する「質問コーナー」を設け、参加者の皆さんの日々の支援で困っていることについて、一緒に考える時間も予定しています。

OT同士の“つながりづくり”も大切にしたい、アットホームな雰囲気で行っています！

普段就労支援に取り組まれているOTはもちろん、就労支援に興味のある方も、是非、お気軽にお申し込みください。

【日時】①8月6日（水）18:30～20:00

【定員】聴講：10名

【対象】東京都作業療法士会 会員

【参加費】：無料

【申込方法】「東京都作業療法士会ホームページ 講演会・研修会・学会情報」

またはこちらのURL（<https://forms.gle/VQiKAJLEnUx26jAi7>）・QRコードよりお申し込みください。



災害リハビリテーション支援のための事前学習について

都士会災害対策担当 松島 宗世

令和6年能登半島地震により「災害リハビリテーション支援」という言葉を耳にする機会が増えました。

東京都作業療法士会では、都内で大規模災害が起こった際に必要に応じて、OT協会・JRAT・東京都や区市町村などと連携をとりながら支援活動を行います。

●「災害リハビリテーション支援」とはどんな活動？

段ボールベッドの組み立てや体操指導だけでなく、避難所や自宅などでの被災者の方々の生活を観て環境を整えたり、認知機能低下や廃用の予防、コミュニケーションの場の提供など、普段私たちが行っている「OT」と同じような活動を行います。（注：支援要請内容により、活動内容は異なります。）

したがって、突然起こる災害に対し、「緊急支援スタッフ」として活動することは可能です。しかし適切な支援を行うために、また自分自身の身の安全を守るためにも、事前の学習が大切となります。

●事前学習とは？

例えば机上では以下のような内容をはじめとする、支援に入るための基礎知識を学習します。

- ①自宅にいるときに震度6強の地震が起こりました。あなたはまず何をしますか？
- ②あなたは被災地支援に行こうと思っています。まず何をしますか？
- ③大規模災害がおこると被災都道府県庁に設置されることが多い「本部」の名称は？
- ④災害支援に関わる団体は複数あります。名称や役割をあげてください！
- ⑤「災害医療の基本原則」および「災害リハビリテーションの対応の原則」とは？
- ⑥災害リハビリテーションで使われる「ロジスティクス」や「クロノロジー」とは？
- ⑦支援への準備も大事だが、〇〇についても体制を整える必要がある

●「災害派遣登録バンク」に登録して事前学習しましょう！

都内で災害発生時、必要に応じて都士会からOTの派遣をスムーズに行えるように都士会で設置した「災害派遣登録バンク」では、実際に避難所支援へ入る際に登録した方への事前学習用の資料提供や、平時の「災害リハ支援に関する人材育成のための研修会」開催などを予定しています。

さきほどの事前学習例の答えを知りたい方や災害リハ支援未経験の方、バンクに登録して私たちと一緒に情報収集や学習をし、有事に備えませんか？

●事前学習例全問で存じだった方・災害リハ支援経験のある方へ

ぜひバンクに登録いただき、有事の際に都士会のOTとして、私たちと一緒に活動しましょう！！

※バンクの詳細や登録方法は[こちら](https://tokyo-ot.com/28856.html)  <https://tokyo-ot.com/28856.html>
皆様からのご登録をお待ちしております！！（ご不明点は下記のアドレスまでお問い合わせください）



★都士会保険部員（災害対策）も募集中ご連絡はtokyootsaigaitaisaku@gmail.com（担当：松岡）まで★

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

伊東 大成

皆様、こんにちは。区東部・東北部ブロック委員の伊東です。

この「都市会ニュース」が届く頃には、今年度の東京都作業療法学会が開催されている時期かと思います。今回は、区東部・東北部ブロックが主催を務めることとなり、中里学会長を中心に、実行委員一同で準備を進めてまいりました。今回のテーマは「Now or Never - 今できること -」です。作業療法士はもちろん、他職種や一般の方々にも作業療法について知っていただき、関心を広げ、つながりを深めていく機会となるよう、さまざまな企画を用意いたしました。「今できること」をキーワードに、皆さんと一緒に考える一日となれば幸いです。

また、学会終了後には振り返りを行い、次回の運営ブロックへの引き継ぎも丁寧に進めていく予定です。来年度の学会も実りあるものとなるよう、引き続き力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。

学会及びブロック連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

西部・西南部ブロック

石川未来

皆様こんにちは。区西部西南部ブロック長の石川です。

当ブロックでは学会が終了した後、8月くらいを目標に近隣OTとの交流会を恵比寿・中目黒近辺で予定しております。都士会の経験豊富な先輩OTも参加予定です（学会長も来てくれるかも?!）。同年代OTの他、先輩OTの方々と交流を持てるチャンスです。また、一人職場の方々もOT同士、交流しませんか？皆様のご参加をお待ちしています。

また、9月頃を目途に地域でご活躍されている作業療法士の先生を招いての研修会も企画しております。とても面白く勉強になるインスタもご紹介できると思います。準備出来次第、都士会HPでお知らせ致しますので、こちらもよろしくお願いします。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

長田 真歩

皆様こんにちは。区西北部ブロック委員の長田です。

私自身昨年度からブロック委員に所属させていただき、研修会などの運営に参加させていただいております。

区西北部ブロックでは、3月に実施し好評であった「生涯教育制度」についての研修会を今夏も開催することになりました。6月1日から募集はスタートしていますので、是非ご参加いただけると良いかと思います。生涯教育制度は今年度から移行期間になります。私も3月の研修を受ける中で、今自分自身が受けなければいけない研修は何か、今後協会がどのような動きをしてどのようなOTを育成していきたいかを考える機会になりました。是非ご参加いただけると良いと思います！

日 時 8月21日（木）19：00～20：30

研修参加費 無料

研修申し込み 6月1日～8月14日まで

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック**山本 司**

皆様こんにちは。区中央南部島しょブロックでブロック長をしております山本と申します。私自身、ブロック活動を始めて、多くの方々とながることができ、職場内だけではできなかった勉強や経験をさせていただいております。その経験から区中央南部島しょブロックでは、OTにとって「つながり」が大事だという思いから、人と人、OTとOT、施設と施設が会い、つながれるようにブロック活動を行っております。

昨年度好評だった『交流会』を今年度も企画しております。現在、皆様が楽しめるプログラムを企画準備しているところです。準備が出来次第、都士会HPなどでお知らせ致しますので、たくさんの方々に参加していただけたら幸いです。

また、ブロック活動に興味のある方、他のOTとつながりたい方など、ぜひ一度活動や会議の様子を見学してみてください！ご連絡お待ちしております。

連絡先→ ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック**岡上 正樹**

皆様はじめまして。今年度よりブロック委員広報を務めております岡上と申します。普段は急性期病院で入院、外来、訪問リハビリに従事しております。

5月16日に今年度第1回目となるオンラインでの座談会「ツドイノバ」を開催いたしました。テーマは「集まれ！新人OT！&新天地OT」と称して、入職したての新人OTさん、これからOTになる実習生さん、かつて新人だったベテランOTさんなど19名の参加がありました。当ブロック田原代表より情報提供後、4グループに分かれて学生さんや新人OTさんの悩み、ベテランOTの新人時代の悩み、上司との関わり方などについて語り合いを行いました。年代、領域を越えた交流が行える場となりました。次回のツドイノバは8月を予定しております。現在ブロック委員12名で管理、学術、広報、会計、災害対策、適働適画プロジェクトなどの活動を行っております。

*ブロックメンバーも引き続き募集中です。ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。
ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック**加藤 翔平**

当ブロックでは現在今年度の企画案を出しており、研修やイベントの年間スケジュールが少しずつ決まってきました。2025年度の新企画として、ブロック圏内のOT同士が交流できる機会「OT交流会（仮）」が決定しました。年間を通しての定期開催を予定しています。同じエリアで働く作業療法士同士で日々の悩みや異なる領域の話題などについて、気軽に交流できる場になることを目指していきたいです！参加者の方々にご意見をいただきながら、一緒に「OT交流会（仮）」をブラッシュアップしていければと思います！！

そして、引き続きブロックの活動メンバー大募集中です！西多摩・南多摩ブロックは色々な領域で働くフレキシブルなメンバーが集まっています。

活動にご興味ある方はお問い合わせいただけたら嬉しいです！⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

地域づくりサポーター実践報告会&交流会（Café&bar）を終えて

東京都作業療法士会 地域づくり共創部 豊島区リハビリテーション従事者連絡会 森本 美和

4月17日に地域づくりサポーターによる実践報告会&交流会を実施しました。

地域づくりサポーターとは、地域支援に資する各種研修受講者や地域支援事業実践者で構成される都士会のサポーター制度の一つの役割です。

地域づくり共創部では、地域共生社会の構築に寄与する作業療法士を目指し、『東京都内全域で地域における作業療法実践を推進する』という目標のもと、地域づくり人材育成事業に2023年から取り組んでいます。

今回のイベントでは、町田市、江東区、江戸川区でご活躍の多摩丘陵病院：青木佳子氏、ウィル訪問看護ステーション：一色航氏、森山脳神経センター病院：佐藤千恵氏により、各自の地域リハビリテーション活動支援事業の取り組みについて実践報告を行なってもらった後、参加者22名、報告者3名、地域づくり共創部部員8名で交流会を楽しみました。

各自治体の特色や事業の違いを知り、「OTだからできること」や「OTにしかできないこと」等、作業療法士としての専門性を考える機会となりました。

また、Barということで美味しい一杯で多少の魔法もかかり、率直なお話や意見交換、相談ができる等、貴重な時間となりました。

地域での実践に興味・関心のある皆様、7月の都学会では、「ICT活用による高齢者の社会参加支援と作業療法の可能性」をテーマにシンポジウムを行いました。

多くの皆様とお会いできることを地域づくり共創部一同、楽しみにしております。

編集後記



4月から早くも三か月経ちました。私は以前、職場の腰痛予防係に任命され、腰痛を学びました。労災第1位でもある腰痛。なりやすい人は1～2年目の新人さんであることを皆さんはご存じでしょうか。どうぞ、ご自分の身体を大切に守って欲しいと思います。

慣れない職場は持続的に緊張状態をもたらします。さらに希望を持ち、新しい目標に向かって努力したいという新人の方には身体を酷使しやすい環境になりやすいです。

身体的にも心理的にもリラックスし、良い状態を保って働くことが長く働く秘訣だと思います。そこで私は職場に朝のラジオ体操を導入させていただきました。3分と少しの時間ですが、みんなで体操する。わずかな時間、他愛の無いコミュニケーションも生まれます。実施していた期間、新人さんからは腰痛の訴えは聞けなかったです。

皆様の職場では腰痛予防はされていますか？

♪広報部ではニュースの発行やSNS運用などに協力してくださる仲間を募集しています。活動に関心がある方は下記までご連絡ください。

tokyo-ot-koho@live.jp

広報部 部長 野村 哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。